

新規事業採択時評価結果（平成28年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
 担当課長名：川崎 茂信

事業の概要

事業名	一般国道483号 (北近畿豊岡自動車道) 豊岡道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 近畿地方整備局
起終点	自：兵庫県豊岡市戸牧 至：兵庫県豊岡市上佐野	延長	2.0km		
事業概要 一般国道483号北近畿豊岡自動車道は、豊岡市を起点とし丹波市に至る延長約70kmの自動車専用道路である。これまでに約50kmが暫定2車線で開通し15.8kmが事業中であり、本道路は未事業化区間約7.1kmのうち豊岡～豊岡南間の2.0kmである。					
事業の目的、必要性 本道路は災害時にも機能する信頼性の高い高速ネットワークの形成、医療アクセス負担を軽減し地域の安全・安心の確保、ネットワーク整備により速達性を向上し観光の活性化に貢献するものである。					
全体事業費	約130億円	計画交通量	約13,800台/日		
事業概要図 					

関係する地方公共団体等の意見
 【兵庫県知事】
 北近畿豊岡自動車道は、山陰近畿自動車道等と高速道路ネットワークを形成し、日本海側高速道路網の空白地帯解消や、但馬地域と阪神都市圏との交流・連携の強化に資する極めて重要な道路です。
 豊岡道路の整備により、「城崎温泉」、「コウノトリの郷公園」、「山陰海岸ジオパーク」等への観光入込客数の増加や、但馬地域唯一の三次救急医療機関「豊岡病院」の医療圏域拡大、災害時における豊岡病院や広域防災拠点「コウノトリ但馬空港」等への新たなアクセスの確保など、大きなストック効果が発揮されると考えています。
 つきましては、北近畿豊岡自動車道 豊岡道路（豊岡南IC～豊岡IC、2km）の平成28年度予算化をお願いいたします。

学識経験者等の第三者委員会の意見
 ・新規事業化については妥当である。

事業採択の前提条件
 ・費用対便益：便益が費用を上回っている
 ・手続きの完了：都市計画決定・環境影響評価手続き完了（H27.6.23）

事業評価結果

費用便益分析	B/C	1.1 (2.3)	総費用：2,494億円 (事業費：2,243億円 維持管理費：251億円)	総便益：2,752億円 (走行時間短縮便益：2,262億円 走行経費減少便益：334億円 交通事故減少便益：156億円)	基準年：平成27年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=0.99 (交通量 -10%)	B/C=1.2 (交通量 +10%)		
		事業費変動	B/C=1.01 (事業費 +10%)	B/C=1.2 (事業費 -10%)		
	事業期間変	B/C=1.11 (事業期間 +20%)	B/C=1.11 (事業期間 -20%)			
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	—	・注目すべき影響はない		
		事故対策	—	・注目すべき影響はない		
		歩行空間	—	・注目すべき影響はない		
	社会全体への影響	住民生活	◎	・降雪時の搬送円滑化により60分圏人口が拡大し、地域の医療不安の解消に貢献 [60分圏カバー人口] 整備前12.5万人 → 整備後15万人（約2.5万人増加）		
		地域経済	○	・道路ネットワーク整備による速達性の向上に伴い、高速バス網を活用した地域振興策を含め、山陰海岸ジオパーク等の観光客増加による観光地の活性化に貢献		
		災害	○	・災害時に機能する道路ネットワークにより、豊岡病院等へのアクセスが確保され、円滑な医療活動・物資輸送に寄与		
環境		—	・注目すべき影響はない。			
	地域社会	○	・道路ネットワーク整備による速達性の向上により観光の活性化に貢献 [大阪市から但馬地域（城崎）の所用時間の短縮] 現況 約175分 → 豊岡道路整備後 約155分（20分短縮）			
事業実施環境	○	・都市計画決定・環境影響評価手続き完了（H27.6.23） ・兵庫県知事より、豊岡道路の早期事業化を要望				

採択の理由

費用便益比が1.1と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。
 また、豊岡道路の整備により災害時にも機能する道路ネットワークが形成、医療アクセス負担が軽減し地域の安全・安心を確保、速達性の向上による観光の活性化に貢献するなど事業の必要性・効果は高いと判断できる。
 以上より、本事業の新規事業化については妥当である。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※B/Cの上段の値は和田山JCT・IC～豊岡北IC（仮称）を対象とした場合、下段（ ）書きの値は事業化区間を対象とした場合の費用便益分析結果

新規事業採択時評価結果（平成28年度新規事業化箇所）

事業評価結果（防災機能）

事業の必要性		
災害時にも機能する信頼性の高い高速ネットワークの形成、医療アクセス負担を軽減し地域の安全・安心の確保、ネットワーク整備により速達性を向上し観光の活性化に貢献するものである。		
評価項目	地域の課題	関連する計画
救助活動等	・平成16年の台風23号では、円山川の氾濫により国道312号等の浸水・通行止めが発生し、豊岡市街地が孤立 ・災害拠点病院である豊岡病院等への県南部からの支援ルートが途絶えるなど、災害時に機能する道路ネットワークの構築が課題	※近畿圏広域地方計画（H21.8） ・災害時に救援・救助や迅速な復旧・復興活動を円滑に行うため、防災相互通信波等の活用、代替可能な複数の輸送・移動経路の確保や基幹的広域防災拠点等の整備・機能強化を図るとともに、道路、河川、港湾・航路、空港・ヘリポート等の災害時にも機能する輸送路等の整備・保全を推進する。
住民生活	・但馬地域の第三次救急医療施設は豊岡病院のみで、病院到着まで60分を超える圏域が存在 ・さらに、降雪時は速度低下発生により60分圏域が縮小し、救命率の低下が課題	※近畿圏広域地方計画（H21.8） ・救急車両により患者所在地から第3次救急医療機関まで概ね30分以内に患者を搬送できる地域又はドクターヘリが待機地から患者所在地まで概ね30分以内に到達できる地域の拡大を図る。
地域経済 地域社会	・北近畿豊岡自動車道は、京阪神地域と兵庫県北部の但馬地域との一体化を図る高規格幹線道路であるが、但馬地域北部ではミッシングリンクが存在	※近畿圏広域地方計画（H21.8） ・日本海沿岸地域間や京阪神都市圏と北近畿等との間の交通利便性を高めるため、鳥取豊岡宮津自動車道や北近畿豊岡自動車道等の必要な整備を推進する。
その他		

事業の有効性									
・当該事業の実施により、主要拠点間のリンクの評価がDランク→Cランク（Cランク→Bランク）に改善するとともに、不通リンクの解消によりネットワーク全体の防災機能が強化される。 ・また、本事業において、災害時にも機能する信頼性の高い高速ネットワークが形成されるとともに、医療アクセス負担の軽減、地域の安全・安心の確保、速達性向上による観光の活性化への貢献など有効性の高い事業と評価する。									
道路ネットワークの 防災機能	主な区間		改善 ペア数	脆弱度 （防災機能ランク）		累積脆弱度 の変化量	改善度		評価
				整備前	整備後		通常時	災害時	
	三木総合 防災公園	但馬空港	18 (10)	1.00 [D] 〔0.40 [C〕〕	0.53 [C] 〔0.33 [B〕〕	▲ 425.44 (▲ 38.21)	0.10 (0.02)	0.56 (0.09)	◎

事業の効率性
都市計画決定、環境影響評価手続き完了（H27.6.23）

※道路ネットワークの防災機能の上段の値は和田山JCT・IC～豊岡北IC（仮称）を対象とした場合、下段（ ）書きの値は事業化区間を対象にした場合の防災機能評価結果